

平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ムロアジ類

学名 *Decapterus* spp.

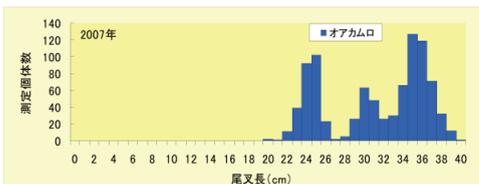
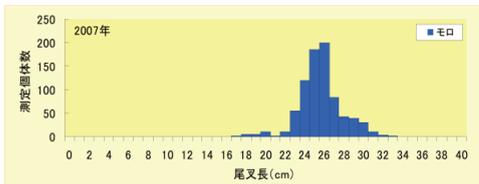
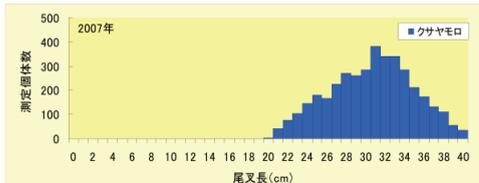
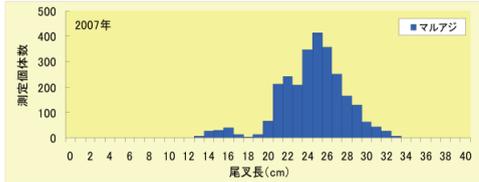
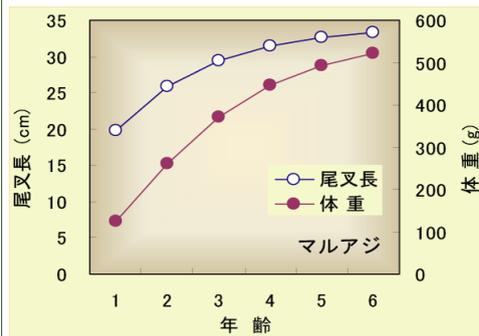
系群名 東シナ海

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 5歳以上
成熟開始年齢: 不明
産卵期・産卵場: 春～夏季に産卵する魚種が多い、東シナ海の広い範囲で産卵するが魚種により異なる
索餌期・索餌場: 不明
食性: 動物プランクトンを主体に捕食
捕食者: 大型魚類や哺乳類

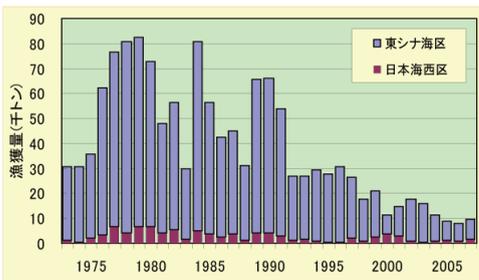


漁業の特徴

大中型まき網および中・小型まき網により漁獲され、2007年は大中型まき網が漁獲量の約6割で、残りの多くを中・小型まき網が占める。東シナ海区で多く漁獲されるムロアジ類は、マルアジ、ムロアジ、モロ、クサヤモロ、オアカムロ、アカアジである。中国もムロアジ類を多く漁獲している。この海域におけるムロアジ類の漁獲量を県別でみると、長崎県と鹿児島県の漁獲量が多い。

漁獲の動向

東シナ海区の漁獲量は1978年の76千トン进行ピークに一度減少したものの、1984年に75千トンを超える漁獲量があった。その後減少を続け、2000年には10千トンを下回った。日本海西区は、1990年代後半には6千トンを超える漁獲があったが、1990年代半ばには1千トンを下回った。日本海北区は、200トン以下の漁獲量で、2007年は152トンだった。2007年の合計漁獲量は約10千トンであった。

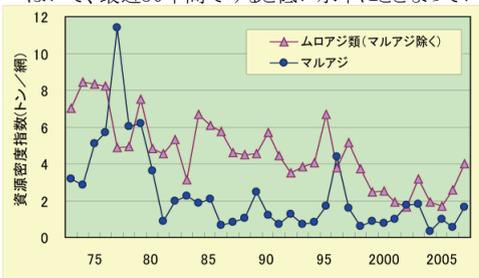
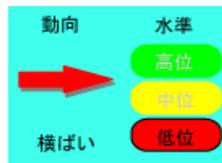


資源評価法

ムロアジ類には複数の種が含まれており、それぞれの種について資源量推定を行うには十分なデータがない。ここでは単一の漁業種類としてはムロアジ類漁獲の大きな割合を占める大中型まき網の資源密度指数の動向から資源水準と動向を判断した。なお、大中型まき網ではマルアジとその他のムロアジ類の2つに分けて漁獲情報の収集がされているため、ムロアジ類およびマルアジの資源密度指数のそれぞれの値の相乗平均値を資源量の指標値とした。

資源状態

大中型まき網のムロアジ類(マルアジ除く)の資源密度指数は、1997年に比較的高い値を示した後、減少して最近5年間は横ばいである。マルアジ資源密度指数は近年では1996年に高い値を示した後、減少して低い水準にとどまっている。ムロアジ類(マルアジ除く)およびマルアジ資源密度指数の相乗平均値は最近5年間(2003~2007年)で見ると横ばいで、最近30年間で見ると低い水準にとどまっている。



管理方策

資源量の指標値の動向から、現在の資源量は低水準にあるとみられるが、ムロアジ類については複数の魚種が含まれ、それぞれに加入量の年変動が大きいとみられる。本来ならば、種別にABClimitを設定すべきだが、現状ではマルアジ以外は魚種別の漁獲量も明らかでなく、資源量の変動を追うのは困難である。現状では資源の指標値に合わせて漁獲することが現実的であろう。全体としてみると、資源水準は低位だが、動向は横ばいとみられるので、現在程度の漁獲量は妥当であると判断した。

| | 2009年漁獲量 | 管理基準 | F値 | 漁獲割合 |
|-----------|----------|-------------|----|------|
| ABClimit | 8,900トン | Cave3-yr | — | — |
| ABCtarget | 7,100トン | 0.8Cave3-yr | — | — |

資源評価のまとめ

- ムロアジ類には複数種が含まれ、マルアジを除くその他の種について種別の資源指標は不明である
- 資源水準は低位で、動向は横ばいである

管理方策のまとめ

- 現状では種毎の漁獲量も把握できないので、資源の指標値にあわせて漁獲することが現実的である
- 東シナ海全域での資源状態の正確な把握には、関係国間の協力が必要である

資源評価は毎年更新されます。